



2017年度 サマー聖書キャンプ

8月22日（火）～23日（水）にサマー聖書キャンプを実施いたしました。

今年は天候にも恵まれ、伊江島・普天間・辺野古にて1泊2日のプログラムを行うことができました。

8月22日（1日目）

初日は金 永秀宗教部長の開会礼拝から始まりました。「ナザレから何か良いものが」と題して聖書を開きつつ、本学の「建学の精神」や創立者の仲里 朝章先生について学ぶ時間となりました。



開会礼拝の様子

学院を出発後、嘉数高台に登り、宗教部長から普天間飛行場についての説明を受けました。戦争の歴史についておさらいしながら、普天間飛行場の過去とこれからについて話を聞きました。



普天間基地の説明を受ける様子



その後、本部港から伊江島へ移動して「ヌチドゥタカラの家」を訪れました。「沖縄のガンジー」と呼ばれ、米軍に接収された土地を取り戻そうと非暴力による運動を行った故・阿波根 昌鴻氏の活動と信念について学びました。また、阿波根氏の活動パートナーであった謝花 悦子氏から、伊江島と基地の歴史や平和に対する思いについて話を聞きました。住民一体となって戦ってきた謝花氏の真剣なまなざしに応えるように、学生たちも静かに耳を傾けていました。



伊江島 ヌチドゥタカラの家



謝花悦子氏から話を聞く様子



夜には宿泊場所の「土の宿」にてBBQ と花火を楽しみ、「土の宿」理事の木村 浩子氏と懇談の時を持ちました。この日のために沖縄本島から駆け付けてくださった木村氏は、楽しそうにジョークを交えながらご自身の活動や考えについてお話ししてくださり、その明るい姿に参加者全員が元気をもらいました。



BBQ をする様子



「土の宿」理事の
木村浩子さんとお話する様子





8月23日（2日目）

翌日は朝のつどいを行った後、金城盛和氏に伊江島の戦跡をガイドしていただきました。戦時中に使用していたガマを訪れたり、伊江島たっちゅーの頂上まで登ったりと伊江島全体について学ぶ機会となりました。



金城盛和氏のガイドを聞く様子

その後沖縄本島に戻り、辺野古での基地建設抗議活動に参加しました。この日は埋め立てに使用する碎石搬入があり、碎石を積んだトラックがキャンプシュワブに入ろうとするのを阻止しようと座り込む人々や、機動隊と揉める光景を見てショックを受ける学生もいました。その後キャンプを通して考えたことをシェアリングする時間を持ちましたが、辺野古について触れる学生が多く、それぞれが自分の問題として考えるきっかけになったようです。



反対運動参加者に話を聞く様子



それぞれのキャンプの感想を聞く

最後は川西康裕教授による閉会礼拝を行い、「命と十字架」という題でメッセージをいただきました。
後期の月曜礼拝内では、参加学生による本キャンプについての報告会を予定しております。



閉会礼拝の様子



集合写真